



東京登文会NEWS

東京都登録有形文化財建造物所有者の会

第11号
令和2年3月15日

全国登文会フェスタが開催される

(期間:2019年06月21日~22日)

令和元年(2019年)6月21日、22日
愛知登文会主催による「全国登文会フェスタ」が開催されました。

東京登文会からは、金澤会長、小池副会長、事務局から渡辺事務局長、大和田、高

橋の5名が参加しました。

21日の午前中は見学会、続いて日本陶器センターでシンポジウムを開催しました。長島孝一氏(神奈川登文会)の講演の後、パネルディスカッションには、パネリストとして金澤会長が参加しました。

シンポジウム終了後、当ビル1階のお洒落なイタリアンレストランANTI CA ROMAで懇親会が開かれました。



講演中の長島孝一氏



パネリスト席



発言中の金澤会長



懇親会での挨拶する小池副会長



日本陶磁器センター新館(国有有形文化財)

イベント

- 愛知登文会主催「第1回登文会フェスタ」(高橋弘樹・大和田真一)・・・P1
- 全国登録有形文化財所有者の会(全国登文会)総会(大和田真一・高橋弘樹)・・・P2
- 会員訪問「西郊ロッジング」平間美民さん(高橋弘樹・大和田真一)・・・P3~4
- 全国登文会だより・全国登文会正副理事長会議(渡辺俊司)・・・P5
- 東京登文会写真ライブラリー・・・P6
- 「NPO法人 歴史的建造物とまちづくりの会」と東京都登録有形文化財所有者の会・・・P6
- 登録文化財見聞記「旧清明文庫(大田区立勝海舟記念館)」(高橋弘樹)・・・P7
- 役員・行事予定・・・P8
- 事務局だより・・・P8

愛知県半田市で「全国登録有形文化財所有者の会」設立総会を開催

「全国登文会」は2017年三船さんの声掛けて「全国登文会連絡会」（7団体）が東京で発足し、2年後に発展的に引き継がれたものです。日本陶磁器センターでのシンポジウムの翌日、名古屋市からJRで約1時間の半田市で全国登文会の設立総会が開かれました。会場になりました小栗家の14代当主、小栗宏次氏(愛知登文会会長)に、邸内および周辺地域を案内していただきました。



中庭で記念撮影



東京登文会メンバー



総会風景



小栗家住宅表門の前での集合写真

なお、設立に参加した登文会は以下の9団体。

- 秋田県登文会
- 三重県登文会
- 愛知県登文会
- 群馬県文化財協会
- 京都府登文会
- 大阪府登文会
- 神奈川県登文会
- 和歌山県登文会
- 東京都登文会

(順不同)

【小栗家住宅書院および主屋】

小栗家は半田市の豪商で酒、酢の醸造家として名家です。邸内には店舗・住宅など8件の文化財を有しています。特に総会を開いた書院は、「有栖川宮熾仁親王」を迎えるために作られたものです。この半田市は、運河と蔵の街、また中埜家(ミツカン)をはじめとした、酒やビール、酢等の名醸造家の創業の地として有名です。(文、編集、写真：大和田、高橋)

全国登文会の役員は以下の通り決まりました

役員

- | | |
|------|------------------|
| 理事長 | 寺西與一（大阪府登文会会長） |
| 副理事長 | 小栗宏次（愛知県登文会会長） |
| 副理事長 | 塚本喜左衛門（京都府登文会会長） |
| 副理事長 | 渡辺俊司（東京都登文会理事長） |
| 事務局長 | 青山修司（大阪府登文会事務局長） |
- （敬称略）



登文会員訪問記(第1回)/西郊ロッキング・平間美民さん

(令和2年2月28日 取材)



取材に答える平間さん

荻窪の閑静な住宅街に「旅館西郊本館」と「西郊ロッキング」があります。

この建物を所有するのは、当会の理事である平間美民さんです。

建物紹介には「旅館西郊本館は、敷地東側の中庭を囲むように「コ」

の字形に建つ。木造2階建、スレート一部鉄板及び棧瓦葺、建築面積473㎡。

1階は玄関や広間、厨房など、2階には

宿泊室を配する。ベージュ色のモルタル洗出し仕上げの大壁造とする外観は落ち着いたある街路景観をつくる。そして、西郊ロッキングは「本館西側に隣接して、敷地の北西角に沿うようにL字形に建つ。木造2階建、

棧瓦一部銅板葺、建築面積145㎡。13室を有する集合住宅。北西角を曲壁面と

し、その上部に銅板葺ドーム屋根を載せる独特の外観は、ベージュの色調と調和し、親しみを感じさせる。」とあります。しかしこの建物が、この地にできるまで物語がありました。

「西郊ロッキング」の前身は、大正のはじめ『東京市本郷区金助町四八』(現在の東京都文京区本郷三丁目あたり)にあった『第八初音館支店※₁』という下宿です。大正11年4月発行の「東京旅館下宿名簿」に記載されています。岩倉鉄道学校建設科から宮内省営繕課で水道設備の技術者を経て荒玉水道に入った美喜松さん(美民さんの祖父)がはじめました。美喜松さんは公務員でしたが、新人だったことから家計の助けにと二~三人

で始めた下宿業でしたが、やがて第八初音館支店を営むことになりました。実際は、祖母のこうさん(※₃)が切り盛りしていたそうです。この名簿の1年あと大正12年9月の関東大震災で下宿は消失してしまいます。バラックで営業を再開、その後、本建築で再建、営業が軌道にのったところで荻窪に移転します。当時、別荘地となっていた荻窪に洋風高級下宿「西郊ロッキング」をはじめることになります。関東大震災での神田から起きた火災が本郷を襲った恐怖からと思われます。この西洋風高級下宿には、1階に応接間を兼ねた食堂があり、またサロンとしても利用されていました。また、個室には、小さなマントルピース(暖炉)、ベット、

クローゼット、室内電話が備え付けてあり、共同住宅の象徴である50坪あまりの中庭がありました。そして、朝夕の賄い付きだったそうです。そして、新館の特徴的な外観は、宮内省営繕課で上質な建築に出会ったからというだけでなく、荒玉水道会社で野方配水塔(※₄)の建設で設計等に従事した事によると思われ、配水塔に似せたのもその仕事に誇りを持っていたからでしょう。開館当時は、即満室になったそうですが、翌年は退出者が出たそうです。それは、荻窪の冬の厳しいこと、雨が降ると泥で長靴でなければ歩けなかったことなどがありました。長靴などは、「西郊ロッキングです」と言うので預かってくれ



西郊ロッキング新館



建物の空撮



下宿屋時代を偲ばせるマントルピース



面皮柱の装飾のある廊下



阿佐ヶ谷の南通り

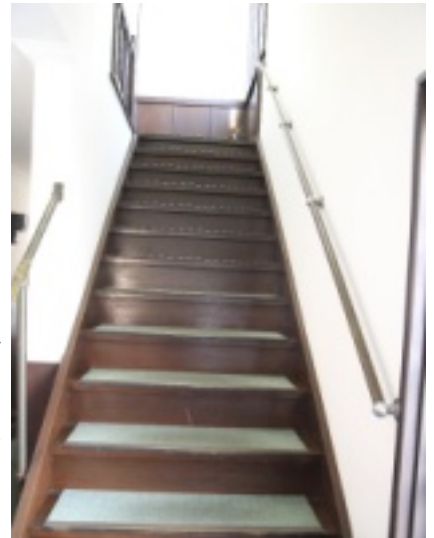


船底天井を説明する平間さん



時代を感じさせる丸窓とモルタル洗い出しの壁

ていたそうです。当今と違って道が舗装していなかったからです。当時、高級な新興住宅地は、どこでもこのようなことがあったようです。また、駅の残業の職員の宿泊を引き受けていたといった事情もあったようです。さて、このロτζにはどのような方々がいたのでしょうか。地方の良家の子息や、近くにあった中島飛行機の技術者の軍人、満鉄や満州関連の社員などが利用していたそうです。それだけ家賃がお高かったことがわかります。戦



当時のままの階段と真鍮の手すり

争の影が濃くなる中、近くの日本無線や中島飛行機で働く人の寮のような使いかたをされました。この辺一帯の旅館、下宿は軍が接收を行い、割り当てたようです。西郊ロτζは日本無線(株)が接收しました。以後、日本無線の社内倶楽部も置かれ、重宝されました。現在、その名残りである電気蓄音機が、玄関横の応接間にひっそり置いてあります。本館の屋根はトラス風の屋根ですが、実は、ビルの屋上のような感じでした。しかし、戦中の焼夷弾の影響で雨漏りがひどくなりトラスの三角屋根を乗っける形で修復しました。当時、屋上を守ってくれたのは日本無線の職工さんたちだったそうです。そんな本館も戦後には、本館と新館2階さらに、門、玄関も和風旅館に大改修※2をし、「割烹旅館 西郊」として、営業をします。戦後の高度成長期(昭和30年頃)には、プリンス自動車(※5)などの企業が接待や宴会で賑わっていました。その賑わいも一段落したころ、国鉄(後にJR)や地下



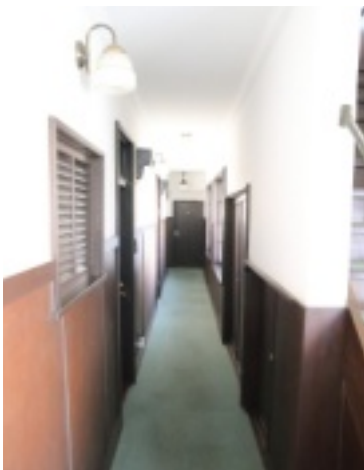
戦後修繕のために作られたトラス屋根

鉄(始めた当時は京王線)の駅に近いこの宿は受験生を受け入れて繁盛します。集団で宿泊したり、親付きでの宿泊が多いとのこと。そして、近年は、近郊の再発見ブームに乗り都内や関東近県や海

外からのお客さまが多いのだそうです。中には、受験生で利用した方の来訪などもあるそうです。なにか引き付けるものがあるようですね。2000年には新館の12部屋を本格的に「西郊ロτζ」としてリニューアルし賃貸物件としました。といっても部屋の外の廊下や外観はなるべく手を入れずに洋館風に元のように直すと言った方がほうがいいのかもしれない。また、室内には、バス、トイレ完備だそうです。入れるにあたって強度調査を行ったところ、補強をすれば相当な年数は維持できると判断され、補強を行って改装したそうです。新館の設計図が無くなってしまっていたので、図面を起こしてもらったとのこと。設計は美喜松さんですが、調査した学者さんも当時の技術が高度であったことに驚いていたそうです。この



天井のシャンデリアは当時のまま



まるでホテルのような新館の廊下

新館が開館するとすぐに満室になったそうです。若い人たちには、昭和レトロ的な感じが人気なのだとか。

(取材、写真：大和田真一、高橋弘樹)

注) ※1 ナンバー制の下宿館、基本的に親族によるチェーン営業。この「初音館」は本館をいれて10ほどあった。ちなみに「第八初音館」は蓬萊町六に本店と金助町に支店の2館が記載されていた、お宅は金助町とのことであるので「支店」とした。 ※2 手がけたのは「若杉工務店」で、船底天井や数寄屋作りの天井、洗い出しの床、面皮柱など当時の高級住宅や、旅館などの建築を数多く手がけた工務店である。現在は、存続しているのかわかっていない。 ※3 祖母ふうさん「東京旅館下宿協会」には、平間幸子となっているが、こうさんの事である。 ※4 旧野方配水塔は荒玉水道に作られた配水塔で、昭和6年に竣工され、現存している。設計建築は日本水道の父・中島鋭治博士、都内にはこのほか駒沢配水塔と大谷口配水塔があり、駒沢配水塔は現存する。ともに登録有形文化財である。 ※5 中島飛行機は戦後解体され、工場や製作所ごとに12社に分割し、そのうちの一つが荻窪のプリンス自動車、後に日産に吸収合併される。

全国登文会だより

第1回全国登文会正副理事長会議（大阪 阿倍野で開催）

事務局長 渡辺俊司

令和元年6月22日に全国登文会が発足したのを受けて同年8月9日に「第1回全国登文会正副理事長会議」が大阪で開催され東京からは渡辺が出席しました。場所は、寺西與一理事長の阿倍野長屋で行われました。地下鉄御堂筋線昭和町下車3～4分の場所にあります。手前の駅は「あべのハルカス」で有名な天王寺駅です。

寺西家長屋は大阪に戦前は庶民の都市住宅として街中に多く見られた形態でこの地区は区画整理事業の中に在り道幅も広く整然とし昭和の雰囲気を残したところです。こちらの長屋も取り壊しの危機があったようですが寺西さんの強い意志でリノベーションされ、現在ではレストラン4軒が入居、いずれも人気店になっています。

長屋の向かいには寺西さんのご自宅がありこちらも登文です。ご自宅の応接間で会議は行われました。規程の検討、行事予定、各地登文会の設立状況など検討が行われました。会議の後は近所の名所、安倍晴明神社や熊野街道、商店街等を歩き大阪の街、昭和の雰囲気を楽しみました。最後に長屋レストランの2階で懇親会が行われ隠れ家的な場所で大阪の和の味を楽しみ、盃を交わしました。会議をアレンジして下さった寺西様、事務局の青山様、京都の塚本様、愛知の小栗様に感謝申し上げます。

尚、こちらでは毎年4月29日には街中の商店、飲食店、イベント企画、見学ツアーなどの参加で寺西家長屋を中心に「どっぷり昭和町」というタイトルで大規模な地域イベントが行われています。

（構成：高橋）



寺西家阿倍野長屋



長屋レストランでの懇親会



全国登文会の会合(鳳明館)2018



全国登文会の会合(鳳明館)2018



神田教会の見学会2019



全国登文会の会合(神田教会)2019



文化庁へ要望書(文科省情報ひろば)2018

東京登文会 写真ライブラリー

東京登文会の会員の所持している写真を紹介するコーナーを始めました。

お持ちの写真を掲載希望の方は事務局までお送りください。



妖怪の宿(鳳明館)2019

(編集：高橋)



ローマ風呂(鳳明館)



神田丸石ビル外観

「NPO法人 歴史的建造物とまちづくりの会」と東京都登録有形文化財建造物所有者の会(三船康道)

当会理事長の三船康道です。

現在 近代建築を始めとする貴重な歴史的建造物は、耐震性の問題や保存するための経済的理由等により、取り壊されつつあります。その結果、都内における歴史的建造物の残存率は著しく減少しています。このような現状のなかで、当NPOは、広く一般市民を対象として、歴史的建造物の保存・再生・活用や、景観保全を中心に、歴史及び文化を活かしたまちづくりに関する調査・研究、講演会や見学会、写真展などの啓発活動を行っています。歴史的建造物の保存・再生・活用を推進し、景観保全活動に努めることにより、人と歴史文化の関係が調和のとれた社会が創造されることに寄与することを目的としています。当会は1997年より活動開始、2014年からはNPO法人として活動を行っています。活動開始当時より、東京登文会が1997年に、都内で初めて「登録有形文化財所有者の会」創設以来、会の運営や建物の定期点検の提案等のサポートを行っています。特にNPO法人のメンバーで建物の維持・管理を専門家としてサポートする「家守グループ」を設置しました。私は現在も、顧問として役員としてサポートしております。東京登文会とは、「文化財と古楽コンサート」で協力関係にあり、カトリック神田教会、教證寺などでの古楽のレクチャーコンサートを開催しています。また、東京都庁の展示スペースで「東京の歴史的建造物」写真展を開催、好評価を得ています。そして横浜・馬の博物館で「日本近代競馬150周年記念シンポジウム&コンサート」の開催を行いました。現在、当会の顧問として東京登文会の金澤正剛さんには古楽のレクチャーコンサートなどでご協力いただいております。(構成・編集：高橋)

NPO法人 歴史的建造物とまちづくりの会 事務局：蓑田
電話：03-6715-7891 FAX:03-6715-7802 E-MAIL：genes@cube.ocn.ne.jp
〒110-0015 東京都台東区東上野6-18-17-A

登録有形文化財紹介 大田区立勝海舟記念館(令和元年9月7日開館)

官軍による江戸城総攻撃回避のため池上本門寺にいた西郷隆盛との会見に出向く際、立ち寄った洗足池を気に入り、後年、同地に土地を購入し農家風の別荘洗足軒を建設しました。海舟の没後、生前からの希望で洗足池の湖畔に埋葬されました。

そして、残された洗足軒は、大正期に勝家から、東洋思想や仏教思想を普及させる団体として活動していた財団法人 清明会へと譲られ講堂として使用されていました。更に隣接した土地を勝家から寄贈されたことから「勝海舟の遺蹟保存及び国民精神涵養のための図書を集集し、公衆の閲覧に供えて社会に貢献する」を目的として清明文庫が建設されることになり、昭和3年に左右対称デザインのネオゴシック基調の講堂兼図書館の建物が竣工。しかし、昭和10年に清明会は諸事情により活動を休止。残された清明文庫は東京府に寄附され、太平洋戦争後の昭和29年に株式会社 学習研究社の所有になった際に鳳凰閣と改称されました。

平成12年、旧清明文庫(鳳凰閣)は竣工時の意匠や仕様が各所に残されていたことから、国登録有形文化財に登録され大田区の文化財建造物のひとつとなりました。そして、平成24年年3月、大田区はこの敷地を購入し、同時に建物の寄贈を受けました。令和元年夏に勝海舟記念館をオープンいたしました。

なお、海舟の別荘だった洗足軒は太平洋戦争後までは現存していましたが、その後焼失、跡地は大田区立大森第六中学校の敷地となっています。

鳳凰閣(旧清明文庫)(現在大田区立勝海舟記念館)

所有:大田区

住所:東京都大田区南千束2-3-1

東洋文明の啓蒙活動を行っていた清明会が設立した清明文庫の本館で、戦後出版社の所有となり鳳凰閣と称す。内装はモザイクタイルを用いるなど要所を飾るが、外壁は装飾的要素を控えた簡明なデザインとし、正面玄関上から立ち上がる4本の柱型に特色がある。

～お知らせ～

なお、7月ごろに勝海舟記念館とその周辺の有形文化財めぐりを計画中です。どうぞ期待です。

主な見どころ、「洗足池風致協会」、「勝海舟記念館」、「東京工業大学」等

参考資料:(大田区商店街連合会H.P.)大田区商店街なび「洗足池の周辺散歩」より

(取材・編集:高橋弘樹)



改修を終え化粧直しをした「勝海舟記念館」



改修前、「鳳凰閣」の文字が見える

役員

会長	金澤正剛	金澤家住宅
副会長	伊藤信夫	神田丸石ビル
	酒井智章	池上實相寺
	小池邦夫	鳳明館本館
理事	大和田真一	難波商店
	平間美民	西郊ロッジング
	坪内富士夫	教證寺
	村守恵子	ギャラリー エフ
	小倉弘安	総建設
	藤島幸彦	NPO法人 歴史的建造物とまちづくりの会
	柳澤示一	NPO法人 歴史的建造物とまちづくりの会
事務局	渡辺俊司(局長)	西洋館倶楽部
	高橋弘樹	旧高橋診療所
顧問	入江建久	新潟医療福祉大学名誉教授
	後藤治	工学院大学教授
	日塔和彦	東京芸術大学客員教授
	藤井恵介	東京大学教授
	三船康道	ジェネスプランニング
		(敬称略)

行事予定

東京登文会予定

3月28日(諸事情により中止)
いちかわ西洋館倶楽部(会員所有建築物)
見学会および懇親会

6月頃
会員総会

7月頃
勝海舟記念館(登録有形文化財)見学会
洗足池周辺散策と懇親会

11月頃
会員所有建築物見学会

12月頃 忘年会

全国登文会予定

4月4日
全国登文会正副議長会議(神田丸石ビル)

6月26日,27日
大阪にて全国登文会ファスタ&シンポジウム

事務局だより

～令和元年の活動について～

昨年度は、本会の年間行事予定が諸事情により行えず会員の皆様には大変ご心配をおかけし申し訳御座いませんでした。その為、昨年度分の年会費のお願いは見送らせて頂きました。

今年は、年間計画をしっかりと立案し、皆様に参加して頂けるような企画を実行して参りたいと思います。また、全国登文会との連携も強めて参りますので、こちらの企画へのご参加も宜しくお願い申し上げます。

事務局一同

発行：東京都登録有形文化財建造物所有者の会 事務局

発行・編集担当：高橋弘樹
住所：〒143-0023 東京都大田区山王3-30-5
☎/FAX：03(6316)0650
Keitai080(5440)2957